

長岡市立堤岡中学校



学校データ

【学級数】

14学級

【生徒数】

383人

【地域コーディネーターの有無】

無

北越戊辰戦争の伝承の地で、地域に出る・貢献できる生徒の育成を目指して

1 はじめに

旧長岡市の北部に位置する堤岡中学校は、昨年までの3年間にわたる大規模な増設と改修を経て、新しい校舎に生まれ変わった。北越戊辰戦争の激戦地だった校区は、開校時は農村地帯だったが、学区の中心部に大規模な工業団地や新興住宅街が継続的に造成され変貌を遂げた。そして、学級数は開校時の2倍になった。生徒は生徒会を中心に様々な活動を行い、堤岡中生徒としてのプライドをもち取り組んでいる。堤岡中学校区としても幼小中連携組織の中学校区連携協議会を立ち上げて3年目になる。

学区内には北越戊辰戦争伝承館があるが、その他の地域の教育的資源についての認識は浅く、「地域のことを自分たちの足で」、「地域の人との触れ合いを自分たちから」ということを大切に、地域に打って出る方策を生徒と一緒に考えている。

2 取組の実際

(1) チャレンジウォーク

創立40周年（平成19年）を記念して、40kmを歩き切ろうと行われた行事である。体力や精神力を向上させる良い機会であることや地域の人と交流が深まることなどから毎年行う行事となった。昨年からは夕方までにゴールできるようにとの配慮から3年間で計100km、毎年33kmとコース変更をした。また、ウォークラリーを取り入れて長岡についてのクイズに答えながら歩き通すようにした。行事前は昼の放送

で「ながおか学」をもとにした問題が放送され、長岡についての問題を考えてウォークラリーに備える。チェックポイントには北越戊辰戦争伝承館などを入れ、60名の保護者にもチェックポイント運営や交通安全管理などの協力してもらっている。

歩き切ることは決して簡単ではなく、途中でのリタイアもある。しかし、生徒は地域の力を得て仲間とともに地域の中を歩き抜くことに大きなやりがいと喜びを感じている。生徒の発案で「ちょこっとボランティア」と銘打ち、コースの途中にあるゴミを拾う取組も行っている。

この行事への個人目標は、1年生では「最後まで」「頑張る」という自分についてのものが多いが、3年生では「仲間と」「感謝して」というように他との関係に変わってくる。

決して楽ではないこの行事への参加を生徒が楽しみにしているのは、地域・保護者の方の支援を得て、苦労した先に得るものがあることを知っているからだと感じている。



北越戊辰戦争伝承館への道では生徒同士がすれ違う

(2) 黒条地区ふるさと祭りへの参加

黒条地区ふるさと祭りは、毎年 600 人もの人
が訪れる大きなイベントである。小学生と大人
のかかわりはある。しかし、中学生とのかかわ
りは少なく、中学生の活躍場面を作りたいとい
う地域からの要請に応える方途を探ってきた。
「気軽に、ものを通してふれあいを」という趣
旨を生かして生徒による「アートバルーン教室」
を行うこととした。昼休みの校長室で、何度か
アートバルーンを作る練習をした生徒を中心
にふるさと祭りに参加した。犬や剣、ライオン
や蛸など色鮮やかで様々なアートバルーンは
会場を訪れた子どもたちの人気となりあっと
いう間になくなった。その後「じゃあ、一緒に
バルーンを作ろう」との生徒の考えで、幼児と
一緒に笑顔でアートバルーンを作る姿があっ
た。3年生は保育園訪問での幼児とのふれあ
いをこの活動を通じて生かすことできた。



生徒のボランティアは希望者が年々増えている

(3) 音楽での伝統楽器「箏」の学習

学区在住の伝統楽器の指導者を招聘し、音楽
で「箏」の授業を行っている。箏はレンタルで
35面を用意し、昨年までは1・2年生を対象に
1クラス1時間、合計8時間の指導で行った。
今年度は、3年生を対象に1クラス2時間の指
導に拡大した。3年生では、前年までの弦をは
じいて音階を出すことからレベルアップし、左
手で弦に圧力を加えて、音に揺らぎを作るなど、
伝統楽器ならではの演奏方法に挑戦し、深い体
験をすることができた。

生徒は、あまり触れることがない伝統楽器に
一生懸命に向き合って演奏していた。



学区在住指導者の専門的指導で予想を上回る技術に

3 成果と課題及び本実践で育成された資質・能力

地域の教育的資源を掘り起こしながら、2年
間で地域と連携する取組を見出し、軌道に乗せ
ることができたのは大きな成果である。地域と
距離を置きがちな中学生時代にあって、地域に
出ることへの肯定的な意識が向上した。加えて、
関わっていただいた地域の方からの評価が、生
徒が地域に出る意欲につながっている。「地域
の方に進んであいさつしているか」の回答では、
全校平均でA評価が昨年度比で11%向上した。
このことが示すように「自分の力を社会で生か
そうとする資質・能力」の育成につながったと
考える。

今後の課題は、発足して3年目の中学校区連
携協議会組織とコミュニティセンターを中心
とした地域組織との連携を図り、中学校区とし
ての地域教育プログラムの拡充を行っていく
ことである。

4 おわりに

今年度の小中連携のテーマの一つに「児童生
徒の集団づくり」を挙げ取り組んでいる。生徒
の自治的活動の力を育てるためである。この自
治的活動を基盤に、生徒が自分たちで地域の理
解や地域への貢献を考え、社会で生きていくた
めの力が育成されるように、堤岡の地域教育プ
ログラムを推進していきたい。